

四国森林管理局入札監視委員会審議概要

開催日及び場所	平成２０年９月３０日（火） 香美市物部町別府	
委員	渡邊法美（高知工科大学マネジメント学部教授） 笹原克夫（高知大学農学部教授） 横川和博（高知大学人文学部教授） 川合通子（高知県森と緑の会理事長） 古谷純代（高知商工会議所女性会会長）	
審議対象期間	平成２０年４月１日 ～ 平成２０年６月３０日	
抽出案件	総件数 35 件	（備考） 抽出案件は、治山、林道に係る各工事、造林及び生産に係る請負事業やこれらの事業に関連する調査・設計業務の入札方式及び規模区分別に、落札率の高い上位５件以上の事案に加え、委員長が個別に選出したものである。 総件数 124 件
治山工事	7 件	
林道工事	1 件	
治山工事に係るコンサルタント業務	1 件	
林道工事に係るコンサルタント業務	0 件	
造林業務	3 件	
生産業務	13 件	
その他	10 件	
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問	回答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申又は勧告の内容	・特になし	

(別紙) 委員からの意見・質問、それに対する回答等 (H 2 0 年度第 2 回)

委員からの意見・質問	回 答
○総合評価落札方式における技術評価は、局の契約適正専門官と担当課で実施しているが、第三者からの意見についてはどのように考えているか。 ○競争参加資格のうち、「森林整備設計積算業務に精通する者」や「国の会計経理事務に1年以上従事した経験を有する者」については、その定義がより明確にわかるような表現とすべきである。 ○治山工事の入札結果を見ると、予定価格を上回る額で応札した者が多く見られる。これほど予定価格を上回る応札者がいるということは、役所の積算に問題がないか分析する必要があると思う。 ○生産事業は応札者が1者の物件が多い。社会的に見て好ましい発注・入札に向けて、今後どのような改善策が考えられるか。	技術提案書等の審査における技術評価加算点の算出にあたっては、必要に応じ第三者からの意見を聴取することとなっている。 現時点においては、発注工事が簡易型が適用される規模であるため、局の契約適正専門官と担当課で実施している。工事規模(金額)が大きな工事を発注する場合には、第三者の意見を聞く等の対応が必要と考えている。 参加資格がより明確にわかるような表記について検討していきたい。 総合評価落札方式については、今年度から導入され、本格導入に向け試行で実施している段階である。入札業者の技術提案書等についても、これまで以上の取組等が提案されており、この部分の経費を過分に見積もった者が多かったものと考えている。 なお、最近の入札においては、予定価格の範囲内での応札が増えている。 当面は、請負事業の発注の見通しに関する情報の公表や入札日時の設定を工夫することにより、競争性や透明性の確保に努めることとしており、今後も新たにどのような対応ができるのか更に検討することとしたい。